碧い森に旅しましょう
－自然と最新技術が出会う エストニア－

主催：早稲田大学校友会調布稲門会語ろうアースカフェ、協力：早稲田大学留学センター

今回の講座は、前回のスウェーデンとバルト海で繋がる美しい国エストニアです。

エストニアはソフトウエア開発が盛んで、IT先進国として知られています。スカイプもこの国で生まれました。世界遺産都市、首都タリンは城壁に囲まれた中世の趣が色濃く漂う街であると同時に IT 産業の中心地です。（右上写真：タリン、撮影 Kaupo　Kalde、提供 VisitEstonia）

７月に、第二次世界大戦中スウェーデン駐在武官として日本の終戦に向かっての情報を探っていた小野寺信・百合子夫妻のドラマ「百合子さんの絵本～陸軍武官・小野寺夫婦の戦争～」が放送されました。小野寺信氏はその駐在以前はラトビア駐在武官でありエストニア、リトアニアも兼務していました。とりわけエストニアは情報交換で重要だったそうです。

ヨーロッパに位置しながら、エストニア語はフィンランド語、ハンガリー語と共にアジアにルーツがあります。日本とも何か共通する文化があるかもしれません。

当講座では日本との歴史的な係わりを含め、歴史、経済、文化に大きな役割を果たしている森林を一つのテーマとして取り上げ、４回の講義で現在のエストニアの魅力を探っていきます。皆様のご参加を心待ちにしております。

（既講座：2013 年ウズベキスタン、2014 年ミャンマー、2015 年スウェーデン）

＜講座日程＞　＊開場は開始３０分前です。＊第１回のみ午前１０時～１２時

第１回	２０１６/１０/　１(土) ＊１０時　～　１２時	「碧い森へ出発」 －概要、地理、自然、歴史－
第２回	２０１６/１１/１９(土) １４時　～　１６時	「森と文化の交差点」 －エストニア語、文化、観光地－
第３回	２０１７/　1/２１(土) １４時　～　１６時	「この森の先には」 －隣国との関係、政治的・福祉的な挑戦－
第４回	２０１７/　2/１８(土) １４時　～　１６時	「WiFi が森の奥深くにある国」 －経済、e-エストニア（電子署名、電子政府など）－

場　所：　調布市文化会館たづくり　　８階　映像シアター（定員１００名）
講　師：　タリヤルヴ・マルギス
費　用：　各回　１，０００円　　（学生　無料）
＜問合せ・申込み先＞　山田和子　（Ｔｅｌ/Ｆａｘ）０４２－４８８－０７４１
（Ｅｍａｉｌ）　kazuko.yamada@jcom.home.ne.jp

―講師プロフィール―

タリヤルヴ・マルギス（Talijaerv Margis）
早稲田大学文学研究科日本語日本文学博士課程２年
エストニア、サク市出身（タリンから１５ｋｍ、ビールが有名）
２０１１年より日本在住、
趣味：　読書、自然が堪能できるスポットでの散歩とジョギング

はじめまして。
エストニアから来たタリヤルヴ・マルギスと申します。早稲田大学で太宰治作品を研究しております。日本に来て、もう五年間になります。日本語と日本文学が中心になる日常生活の中で、珍しく母国のエストニアの文化について語られる機会を与えてくださって、とても嬉しく思っております。

ヴァルドル・ミキタ（Valdur　Mikita）というエストニアの文学者・言語科学者は典型的なエストニア人について「片手でキノコ狩ナイフ、片手で Wi－Fi を持っている」という面白いことを書いています。確かに、エストニアはキノコ狩りなどが楽しめる森と最新の情報通信技術が出会う国として考えられています。エストニアの国土の約 40%以上を森林が占めています。しかも、その概ねはヨーロッパからほぼなくなった、クマ、オオカミやヘラジカが暮らしている未開の森からなっています。同時に、エストニアは技術開発の先駆者でもあります。国民皆電子 ID カード、電子署名などの情報通信サービスは日常的に利用されています。インターネット電話「スカイプ」の開発拠点もエストニアにあります。

豊かな自然と最新技術が交差するという特徴は、エストニアと日本の共通点としても考えられています。またもう一つ、エストニアの森と日本の面白い共通点としては「碧い色」を挙げたいです。ご存知のとおり、日本は昔「緑」を色として認識しませんでした。今日でも緑色の信号やリンゴなどが「青信号」「青りんご」と呼ばれています。

エストニアは「緑」という色が昔からありましたが、大きな、深い森は常に「碧い」森と呼ばれています。エストニアの森については、俳句という伝統的な日本語の詩歌も拝見できます。エストニアで愛されている詩人、アンドレス・エヒンは以下のように歌いました。

Kuused on kõrged,　　樅の木高く
kuid upuvad ometi　　されど鳥の歌に
lindude laulu　　おぼれる
（夏石番矢　訳）

（撮影 Sven Zacek、提供 VisitEstonia）

それでは、アンドレス・エヒンにもインスピレーションを得て、エストニアの碧い森へ架空的な旅に出かけてみましょう。皆様にその遠い国、エストニアの魅力や日本と近いものをご紹介させて頂くことを楽しみにしております！